

## 第1回FD・SD合同研修会の開催報告について

### 1 日 時

2024（令和6）年7月3日（水）16:20～17:30

### 2 場 所

726教室または各研究室等からZoomで参加

### 3 対象者

全教員

職員（任意）

### 4 研修内容（テーマ）

#### （1）テーマ

「生成AIの基礎知識」

#### （2）研修会

##### ①司会・進行

永富 大輔 先生（研究教育開発センター 副センター長）

##### ②講演者

表 正幸 先生（研究教育開発センター長）

### 5 当日の参加者数（含・動画視聴者）

所 属	対象者数（名）	参加者数（名）
経 済 学 科	14	9
経 営 学 科	15	14
社 会 福 祉 学 科	16	15
児 童 学 科	20	16
国 際 文 化 学 科	19	12
音 楽 学 科	8	5
看 護 学 科	29	26
教 員 合 計	121	97
事 務 局 職 員	91	27
合 計	212	124

## 6 総括

- (1) 表先生から、生成 AI に関する基礎知識について説明していただいた。ChatGPT や Copilot のシステムや、できる事などを丁寧に解説していただいた。また、生成 AI 使用に関する法律や、著作権や肖像権についても触れていただいたことで、教職員の生成 AI に関する基礎的な理解が深まったことが考えられる。
- (2) 生成 AI の使用が抱える問題についても、例を示しながら説明していただいた。そのことによって、各教職員が生成 AI の使用に対して、自らの考えや立場を確認することができたと思われる。実際に、研修後のアンケートでも、生成 AI の使用に関する自身の考えについて記したものが少なくなかった。また、学長から、生成 AI の検出ツールについては、ツール自体の信頼性の観点から、大学全体として、直ちに検出ツールを導入していく方向性にはならないことが確認された。
- (3) 学長講評では、高等教育や社会全体の中では、AI に対する抑制的な捉えから「AI をいかにして使うかということに関心が移っている」といった見解をいただいた。また、今後は「実際の授業や学生指導の中で AI をどのように活用しているか」や、「学生にどのように使わせているか」といったように、実践的な方法について学びを深める場があるとよいというご意見をいただいた。

以上

## 2回FD・SD合同研修会の開催報告について

### 1 日 時

2024（令和6）年7月24日（水）16:20～17:25

### 2 場 所

各研究室等から Zoom で参加

### 3 対象者

全教員

職員（任意）

### 4 研修内容（テーマ）

#### （1）テーマ

「合理的配慮の理念と具体的な事例」

#### （3）研修会

##### ①司会・進行

永富 大輔 先生（研究教育開発センター 副センター長）

##### ②講演者

川島 聡 先生（放送大学 教授）

### 5 当日の参加者数（含・動画視聴者）

所 属	対象者数（名）	参加者数（名）
経 済 学 科	14	9
経 営 学 科	15	13
社 会 福 祉 学 科	16	15
児 童 学 科	20	16
国 際 文 化 学 科	19	17
音 楽 学 科	8	6
看 護 学 科	29	24
教 員 合 計	121	100
事 務 局 職 員	91	53
合 計	212	153

## 6 総括

- (1) 川島先生から合理的配慮に関する基本的な概念や、具体的な事例について、法的な根拠に基づきつつ、ご講話をいただいた。合理的配慮の七つの要素や、不当な差別的取り扱いとの関係について例を示しながら説明していただいたことで、合理的配慮が企図するところや、その根本にある理念まで理解を深めることができたと思われる。
- (2) 出席した教職員の中には、合理的配慮を滞りなく実施していく上では、環境を整備していくことも肝要であるように思っている教職員がいたことが確認された。また、合理的配慮を実施するにあたっては、当該学生と綿密にコミュニケーションを取りながら、一番良い方法を探っていくことが重要であるように考えている教職員もいた。
- (3) 学長講評においては、学長ご自身の体験談も踏まえながら、「引き続き、本学としては、障がいのある学生に対して、法的に最低限必要なところだけでなく、より積極的に支援を行い、障がいの有無にかかわらず、全ての学生がよりよい学修経験が得られるように努めていく必要がある」といったご意見をいただいた。

以上

## 第3回FD・SD合同研修会の開催報告について

### 1 日 時

2024（令和6）年12月11日（水） 16:20～17:40

### 2 場 所

各研究室等から Zoom で参加

### 3 対象者

全教員

職員（任意）

### 4 研修内容（テーマ）

#### （1）テーマ

「大学生の実態と悩み！－学生LifeのReal－」

#### （4）研修会

##### ①総合司会（ファシリテーター）

永富 大輔 先生（研究教育開発センター 副センター長）

##### ②シンポジスト

加藤 凌 先生（研究教育開発センター センター員）

##### ③学生代表（シンポジスト）

学生FDパートナー4名

### 5 当日の参加者数（含・動画視聴者）

所 属	対象者数（名）	参加者数（名）
経 済 学 科	14	8
経 営 学 科	14	13
社 会 福 祉 学 科	16	14
児 童 学 科	19	18
国 際 文 化 学 科	19	15
音 楽 学 科	8	6
看 護 学 科	29	21
教 員 合 計	119	95
事 務 局 職 員	90	50
合 計	212	145

## 6 総括

- (1) 永富先生より、学生の学修時間・学修行動に関するアンケートの結果について、詳細に示していただいたことで、現在、本学の学生が置かれている状況について理解を深めることができた。特に、「メンタルヘルス」の問題が、授業の欠席理由として高い割合を占めていることについては、少ない教職員から驚きをもって捉えられていた。
- (2) 学生とのディスカッションでは、メンタルヘルスに関する問題、オンライン授業に関する問題、欠席届の扱い、学習意欲の向上につながる授業のあり方などが話題に上がった。教職員の中からも、学生の本音を通して、あらためて課題に気づくことができたといった感想があった。また、教職員のコメントの中には、出欠席の扱いに関するルールが共有されていない現状を問題視するものもあった。ただし、最後の学長講評において、出欠席の扱いに関するルールや欠席届の本来のあり方について共有されたことで、参加した教職員は、改めて原則を確認することができたと思われる。それと共に、これまでの自らの対応について省察することにもつながったと推察される。
- (3) 教職員からは「学生の生の声を聞くことができてよかった」といった意見があった一方で、「教員側からの自由発言があっても良かった」「さらに多様な学生の意見や要望を知る必要もある」といったコメントもあった。また、「準備されたデモディスカッションのような印象が払拭されず、学生にはただストレスフルだったのではないか」といった感想も寄せられた。教職員にとってより充実した研修会を実施するために、学生FDパートナーとのFD・SD合同研修会のあり方に関して、議論の余地があるようにも思われる。

以上

## 第4回FD・SD合同研修会の開催報告について

### 1 日 時

2025（令和7）年2月3日（月）10:00～12:15

### 2 場 所

図書館4階 産学官地域連携センター「ワーキングスペース」

### 3 対象者

全教員

職員（任意）

### 4 研修内容

地域フィールド演習成果報告（参加学生による活動報告）

### 5 研修会次第

#### （1）開会挨拶

太田 秀春 産学官地域連携センター長

#### （2）ポスター発表

#### （3）講評及び閉会挨拶

小林 潤司 学長

### 6 当日の参加者数（含・動画視聴者）

所 属	対象者数（名）	参加者数（名）
経 済 学 科	14	4
経 営 学 科	14	11
社 会 福 祉 学 科	16	11
児 童 学 科	19	10
国 際 文 化 学 科	19	10
音 楽 学 科	8	3
看 護 学 科	29	6
教 員 合 計	119	55
事 務 局 職 員	90	42
合 計	212	97

## 7 総括

- ・学生の発表や質疑応答、教職員との意見交換からは、フィールドワークから得られる学びの効果が感じられ、ゼミでの充実した学びができていることが伝わってきた。
- ・当日は40名近い教員の参加があり、うち20名以上は担当以外の先生方の参加であり、新たな地域フィールド演習への取組（参加）に期待が持てる結果となった。加えて、事務局職員も平日の午前中にも関わらず40名近い参加があった。
- ・今回、地域フィールド演習参加学生による報告会を本学で初めて開催したが、「学生が自身の学びを自分の言葉で語る機会を作る、教職員間でフィールドワークや連携活動の意見交換をする場を設ける、大学全体で地域連携の意義を再確認しその雰囲気を醸成する」という目的はほぼ達成できた。
- ・今回の成果報告会の参加者からのフィードバックも取り入れ、地域フィールド演習自体の改善を図っていききたい。

以上